

## 幻のみかん“クネンボ”で地域活性化を

九年母（クネンボ）は、今や幻のみかんになりましたが、江戸時代までは関東以南の日本にありふれたミカンでした。

### ○九年母の歴史

- 1 1637年に勃発した「島原・天草一揆」の時、天草四郎が、幕府軍にとらえられていた甥の小平に、原城からの帰り際に「柿、砂糖、九年母、饅頭」などを紙袋に入れて渡したという古文書があります。
- 2 1638年1月10日、幕府軍として原城に参戦した小倉藩小笠原忠真が原城に持ち込んで進上した地元の特産品として「九年母蜜漬」が記録されています。
- 3 1707年の「島原村領内明細帳」によると、島原半島南目の各村に特産物として「九年母」が上がっています。
- 4 1728年、時の8代将軍徳川吉宗に献上しようと2頭の子象をベトナムから連れてきて、長崎から江戸へ1300キロの街道沿いを歩かせます。75日かかりました。その街道の各宿場に「橙50個、九年母30個、饅頭」などを用意しておくようにお触れが出ました。

### ○九年母の取組

- 1 「カンキツ研究口之津拠点」に九年母の木が2本残されているのを平成15年に確認していましたが、29年、国の行財政改革のあおりを食って伐られてしまっていました。それで農水省ジーンバンクから枝を3本購入して接ぎ木で増やしました。
- 2 令和3年、東京大学農学部の農産物成分分析の第一人者永田宏次教授に九年母の成分分析を依頼した結果、ナリルチン（花粉症抑制効果）、ヘスペリジン（血流改善効果）、サーチュイン（長寿遺伝子）が認められました。
- 3 九年母の苗木を希望者に配布し、令和5年1月には計60キロ近く収穫できました。そこで、マーマレードを商品化しました。

### 九年母あれこれ

△世界文化遺産「原城跡」とのかかわりから、そして地域の活性化のために商品化をめざし、やっと実現の見通しができました。

△南島原市教育委員会世界文化遺産推進室と農林部の協力

△九年母マーマレードの製造者：社会福祉法人 悠久会 ありえ未来ワークセンター

△賞味期限：製造から10か月